

【基本施策を推進する実施計画の事務事業】

No	総合戦略事業	事務事業名	事業の概要 (令和6～7年度)	事業の成果 (令和6年度)	施策への貢献度 (実績)	今後の課題・方向性	部局名	課名	関連事業 (決算事業別概要ページ)
1	○	高齢者介護予防・地域活動等支援バス運行事業費	高齢者の社会参加と生きがいづくりの推進、地区公民館を拠点に活動している団体の地域活動や研修会等に参加する機会の拡大を図るため、高齢者介護予防支援バス・地域活動支援バスを運行し、高齢者団体等のレクリエーション活動や研修活動、ボランティア活動などを促進する。	高齢者介護予防・地域活動等支援バスの運行 令和6年度実績 ・旧高齢者バス 350件 ・旧ボランティアバス 17件 ・旧公共交通機関利用助成 149件	高齢者介護予防・地域活動等支援バスの運行や貸切バスを利用した高齢者団体の地域活動を支援することで、高齢者の社会参加と生きがいづくりを推進することが、引きこもりの防止等介護予防につながり、結果、健康寿命の延伸が図られた。	引き続き多様な活動を支援するために高齢者介護予防・地域活動等支援バス運行事業を行い、高齢者の社会参加と生きがいづくりを促進することにより、引きこもりの防止等介護予防、健康寿命の延伸を図る。	福祉部	長寿社会課	110
2	○	単位老人クラブ活動補助金	地域の支え合いや地域を豊かにする活動の活性化を図ることで、高齢者のつながりや生きがいを高めるとともに、健康づくりを推進するため、老人クラブの活動を支援する。	老人クラブの活動に対する助成 ・支援団体数 209クラブ ・助成額 老人クラブ連合会加入 20千円～74.7千円 老人クラブ連合会未加入 10千円～37.3千円	老人クラブの活動を支援することで、高齢者の社会参加と生きがいづくりを推進し、引きこもりの防止等介護予防につながることにより、健康寿命の延伸が図られた。	老人クラブは、会員の健康づくりや介護予防の取り組みに加え、ボランティア活動なども行っている。地域福祉の重要な担い手として更なる活動の展開が期待されるところであるが、クラブ数及び会員数とも減少傾向が続いていることから、会員の増加に向けた取り組みを行っている。	福祉部	長寿社会課	112
3	○	eスポーツを活用した高齢者等の社会参加推進事業費	「eスポーツ(eSports)」とは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、として捉える際の名称である。このeスポーツは、国体やオリンピックにおいても活用が期待されており、全国的な流れとして高齢者の健康増進に活用されている機会が増えている。鳥取県においても、公民館や高等学校での機運が盛り上がりを見せており、令和6年度に実施される高齢者の健康とスポーツ・文化の祭典「全国健康福祉祭（愛称：ねんりんピック）」においても「eスポーツ」が初めて競技として認められた。本市においても、高齢者等を中心に「eスポーツ」に触れていただく機会を提供することで、健康保持・増進や社会参加・生きがいの高揚を図り、新たな地域の健康づくりにつながることを目的とする。	・健康ゲーム指導士養成講座 2回開催 37名参加 ・eスポーツ体験会の開催 57回開催 延べ958人参加	県内でのねんりんピック開催に伴い、eスポーツへの関心も高いことから、サロン等の高齢者の集いの場や公民館事業等の世代間交流を中心にeスポーツの普及を行い、介護予防への取組推進につなげることができた。	今後もeスポーツの普及を進め、介護予防の取組推進を図る。 令和7年度から生活支援体制整備事業費へ統合する。	福祉部	長寿社会課	113
4	○	地域ふれあい事業費	ふれあいのあるあたたかい地域づくりができるよう、しゃんしゃん体操を普及させることで、元気で活動的な高齢者を増やし健康寿命の延伸を図る。	普及員スキルアップ研修4回 しゃんしゃん体操普及事業検討委員会2回 しゃんしゃん体操普及員連絡会議3回 しゃんしゃん体操普及員による活動地区28地区 地域でのしゃんしゃん体操実施回数・人数 1,426回、延べ20,630人 しゃんしゃん体操普及員養成講座開催：28名修了 介護予防測定：11地区 びよんびよんネットでの番組放送	しゃんしゃん体操養成講座で28名の修了者があり、地域での活動につながり、地域でのしゃんしゃん体操実施回数・人数ともに前年度より増加している。体操人口が増えることで、活動的な高齢者の増加や地域づくりにつながると考える。また、びよんびよんネットでのしゃんしゃん体操番組の放送を実施。普段からの体操の継続につながるよう支援を行った。	しゃんしゃん体操普及員養成講座を実施し新たな普及員を養成し、地域での啓発活動を安定的に実施することができるようサポートしていくとともに、普及員同士のつながりの醸成や、普及員が積極的に活動を行い、普及員活動を継続していけるような支援を継続する。また、しゃんしゃん体操普及員を対象にフレイル予防の知識についての研修会を実施予定である。	健康こども部鳥取市保健所	健康づくり推進課	114

【基本施策を推進する実施計画の事務事業】

No	総合戦略事業	事務事業名	事業の概要 (令和6～7年度)	事業の成果 (令和6年度)	施策への貢献度 (実績)	今後の課題・方向性	部局名	課名	関連事業 (決算事業別概要ページ)
5	○	福祉ボランティアのまちづくり事業助成交付金	高齢者が社会参加活動を通じて要支援・要介護状態になることを予防し、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、高齢者等が気軽に集まれるサロンの開設・運営を支援する	サロン数：392 ※うち、補助金対象サロン（結成して1、2年目）47 サロン開催数：9,845回 延べ参加者：94,987人	ふれあいいきいきサロン開設・運営の支援により、地域の通いの場や集いの場が維持されている。	ふれあいいきいきサロンは、サロン代表者や生活支援に取り組む地域福祉関係者の高齢化に伴う担い手不足が大きな課題であり、近い将来大幅な減少が予想される。一方で住民主体のサロンだけではなく公民館事業や地域食堂、スーパーのイベントスペースなどの企業や団体の通いの場も増えてきている。周知不足や移動手段がないなどで知らない、行くことができないという声もあるため、関係機関などに通いの場の情報共有を行い、必要な人に情報提供ができるようにしていく。	福祉部	長寿社会課 (鳥取市中央包括支援センター)	115
6	○	老人の明るいまち推進事業費	高齢者の仲間づくり、健康づくり、生きがいづくりを図るため、趣味の教室や各種スポーツ大会、社会奉仕活動、健康講座等の多様な活動の機会を提供する。	・趣味の教室、作品展、各種スポーツ大会の実施 趣味の教室 418人 作品展 190人 各種スポーツ大会 584人	趣味の教室、作品展、各種スポーツ大会を実施することで、高齢者の生きがいづくりや健康づくりを推進した。多様な活動が引きこもりの防止等介護予防につながり、健康寿命の延伸が図られた。	引き続き多様な活動の機会を提供し、高齢者の仲間づくり、健康づくり、生きがいづくりを推進することにより、引きこもりの防止等介護予防、健康寿命の延伸を図る。	福祉部	長寿社会課	116
7	○	ねんりんピック推進事業費	第36回全国健康福祉祭（ねんりんピックはばだけ鳥取2024）鳥取市交流大会の運営 開催期間：令和6年10月18日～10月21日（前夜祭含む） 開催種目：ゲートボール、テニス、サッカー、ボウリング、太極拳、俳句 競技会場：ヤマタスポーツパークほか市内10会場（風紋広場賑わいイベント含む）	事業費：251,649,283円（大会運営に係る市実行委員会運営経費） 交流大会参加者数：47,733人（スタッフ含む） 選手の大会満足度アンケート結果：良かった52%、普通 47%、悪かった 1% ※鳥取県大会全体での参加者数及び経済効果：540,821人 130億円（県全域）	高齢社会が進む中、市民のみなさんには生きがいを持つことや人と触れ合うことの大切さを知っていただく機会となった。本大会で実施したスポーツや文化活動、及び交流体験が本市のフレイル予防施策につながっていくものと考ええる。	運営に参加した競技団体や市職員の他にも、一般ボランティアや専門学校生、福祉グループといった多くの市民のみなさんに協力いただき、大会期間中はまちが大いに賑わった。今後、本市が取り組むであろう全国規模イベントの運営手法のモデルケースとなる。	福祉部	長寿社会課	116
8	○	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業費	高齢者の心身の多様な課題に対応しきめ細やかな支援を実施するため、保健・医療・介護分野で連携して迅速かつ効果的にアプローチし、フレイル（心身の虚弱）予防を推進する。	全市で実施 個別支援：（実）138人 集団支援：（延）1227人 通いの場の箇所数：（実）71箇所	個別支援では複数のフレイルリスク保有の対象者や、健診・医療等の情報がない健康状態不明者へ訪問等による支援を実施。健康状態や生活習慣等を把握し、自身の生活課題に気づき次の健康行動につながるよう、複数医療専門職で効率的・効果的なアプローチに取り組んだ。通いの場を対象とした集団支援では、参加者のフレイル状況把握と健康教育を一体的に実施し、社会参加の重要性や生活課題改善に向けた意識の変化が見られた。また、多職種・多機関で連携して実施することで、個別支援や地域づくりに向けた取組への波及効果があった。	引き続き市内全域で実施予定。実施体制の拡充と同時に、住民自身が地域でフレイル予防に取り組めるような仕組みづくりについて関係機関等と連携しながら、継続して検討していく。	福祉部	長寿社会課 (鳥取市中央包括支援センター)	117
9		自死対策強化事業費	主に働き盛り世代のメンタルヘルスに関する知識の普及と心の健康に関する相談体制を整備し、自死予防を図る。	・心の健康、自死予防に関する普及啓発の実施 自殺予防週間や自殺対策強化月間等の機会を通して、パネル展示、チラシや啓発物の配布、ホームページや市報に掲載。 ・企業向けメンタルヘルス出前講座及び研修会：21回開催、参加者数492名 ・心の健康相談件数：訪問 延べ294、面接 延べ168、電話 延べ784 ・高等学校と連携し、高校1年生を対象にメンタルヘルスの知識等に関する普及啓発を行った。 (5校：467名)	・様々な機会を通して、心の健康、自死予防に関する普及啓発を行い、正しい知識や相談窓口の普及啓発を図った。 ・若年層に対して、大学祭やガイダンス時等の際にチラシ配布やパネル展示等を行った。 ・令和6年度は自死者数・自死死亡率共に減少した。 (R5：自死者数25人、自死死亡率：13.6%) ⇒ (R6：自死者数17人、自死死亡率：9.3%)	・働き盛り世代の自死者数が増加しているため、企業向けメンタルヘルス出前講座や研修会時の機会を捉え、普及啓発を行っていく。 ・若年層への自死対策に関して、引き続き大学祭やガイダンス時等の機会を捉え、普及啓発を行っていく。	健康こども部鳥取市保健所	心の健康支援室	153

【基本施策を推進する実施計画の事務事業】

No	総合戦略事業	事務事業名	事業の概要 (令和6～7年度)	事業の成果 (令和6年度)	施策への貢献度 (実績)	今後の課題・方向性	部局名	課名	関連事業 (決算事業別概要ページ)
10	○	健康診査費	各種がん検診、健康診査、後期高齢者健康診査、肝炎ウイルス検査等を実施し、疾病の早期発見・早期治療を図る。	69歳以下受診率 胃がん検診 33.9% 肺がん検診 31.2% 大腸がん検診 33.8% 子宮がん検診 67.6% 乳がん検診 54.9% ※子宮、乳は2年に1回の受診率	がんは死因の1位で、その約3割を占めている。対象者のがん検診の受診機会の確保により早期発見・早期治療を図ることで、がんによる死亡率の減少につながっている。	働き盛り世代の受診率が伸び悩んでいる状況にあるため、企業等と連携した啓発活動や効果的な個別勧奨通知による啓発を行う。また、託児付き集団健診を実施するなど受診しやすい体制を整備する。	健康こども部鳥取市保健所	健診推進室	156
11	○	健康教育・健康相談・訪問指導事業費	生活習慣病及び介護を要する状態になることを予防し、健康づくりを支援するため、健康教育・健康相談・訪問指導を実施し、適切な指導や支援を行う。	健康教育、健康相談、訪問指導を実施 【教育】〔成人保健〕健康に関する知識の普及・啓発(135回 延べ3,025人)〔学校保健〕〔わくわく元気教室〕将来の生活習慣病予防に向けた知識の普及・啓発(実21校 延べ1,000人)〔出張がん予防教室〕がん教育を行う学校に講師派遣(実8校 延べ907人) 【相談】個別相談による住民の健康不安の解消、健康づくりへの助言(303回 延べ4,796人) 【訪問】看護師・保健師・栄養士の家庭訪問による支援(延べ256人)	糖尿病等の生活習慣病は、死亡や要介護状態の主な原因の一つとなるなど、本市においてもその対策が急務である。特に、若い世代や働く世代へのアプローチが重要で、学校保健や働く世代へのアプローチの強化を図ることができた。	特定健診の結果で、生活習慣の改善が必要な方だけではなく、健康無関心層や未受診者への支援も必要である。産官学民連携を推進しながら、地域における健康づくりの意識を醸成していくことが必要である。	健康こども部鳥取市保健所	健康づくり推進課	157
12	○	シルバー人材センター運営補助金	高齢者の意向に応じた臨時的・短期的な就業機会の提供を行う「公益社団法人鳥取市シルバー人材センター」の運営を支援し、高齢者の豊かな生活の確保や生きがいづくりを図る。	・会員数 737人 ・就業率 89.3% ・受託・派遣件数 5,082件 ・受託・派遣事業総実績 315,425千円	就業による高齢者の積極的な社会参加と生きがいづくりを創出し、活力ある高齢社会と地元企業の人材不足解消に貢献している。	(公社)鳥取市シルバー人材センターは、就業による高齢者の積極的な社会参加と生きがいづくりを創出し、活力ある高齢社会と雇用の創出に貢献する中核的な組織であり、地元企業の人材不足解消に向けても、引き続き支援を行っていく必要がある。	経済観光部	経済・雇用戦略課	161
13	○	特定健康診査等事業費	40歳～74歳までの国民健康保険被保険者に対して生活習慣病に着目した特定健診・特定保健指導を実施する。	本市国民健康保険被保険者を対象とした、特定健診、特定保健指導の実施 特定健診受診者数 8,543人 受診率 37.1% 特定保健指導実施率 25.2%	中長期的な医療費適正化と健康寿命の延伸に結びつく法定事業であり、受診率の向上と保健指導の実施により、生活習慣病の発症および重要化予防に繋がっている。	近年、特定健診受診率は若干の上昇傾向、特定保健指導実施率は低下の状況にある。より特定保健指導が気軽に利用できるよう、各関係団体とも協力し啓発及び利用勧奨を行っていく。	健康こども部鳥取市保健所	健診推進室	354
14	○	高齢者健康教室事業費	高齢者を対象とした健康教育を実施することで、介護予防に関する知識の普及・啓発を行い、自主的な活動ができるよう支援することで、介護予防及び健康寿命の延伸を図る。	高齢者健康教室の実施 回数 延べ298回 参加者数 延べ3,421人	高齢者を対象として介護予防に関する知識の普及・啓発を行い、高齢者自身が介護予防のために地域の中で自主的な活動ができるよう支援を行った。	多数の住民へフレイル予防や生活習慣の重症化予防について理解してもらえよう、地域包括支援センター等と連携しながら進めていく。また、運動器機能の低下等の防止と閉じこもりを予防するため、地域で自発的に運動や交流などの取組ができるよう地区担当保健師だけではなく、地域の関係機関と協働しながら支援を行っていく。	健康こども部鳥取市保健所	健康づくり推進課	362
15	○	介護予防普及啓発事業費	地域における高齢者の自発的・継続的な介護予防の取組を促進するため、地区公民館等での出前講座の開催等を通じて、高齢者に介護予防に関する基本的な知識の普及啓発を行う。	・介護予防に関する出前講座の実施 開催回数：126回、参加者数：延1,752人 ・フレイル予防啓発ポスターをスーパーや公衆浴場、関係機関等へ掲示依頼。 ・フレイル予防啓発ちらしを郵便局や職能団体等へ配架。 ・フレイル予防月間(2月)に、バスマスク(くる梨)や鳥取市中央図書館での展示を通じてフレイル予防について啓発。 ・熱中症啓発とあわせたフレイル啓発のイベントを保健所や市社会福祉協議会とともに実施 参加者数：28人	令和5年度は介護予防に関する出前講座の開催回数が92回、参加者数が延1,288人であったが、令和6年度は開催回数・延参加者数とも増加した。地区公民館等での出前講座の開催やフレイル予防に関する各種取組を通じて高齢者等へ介護予防に関する知識の普及啓発が図られた。	出前講座の申込状況に地域差があるため、様々な地域で出前講座を活用していただけるよう周知方法を検討していく必要がある。また、フレイル予防に限らず、高齢者に必要なテーマや内容を整理・検討し、内容の充実を図ることで、より多面的な視点から介護予防に関する知識の普及啓発を推進していく必要がある。	福祉部	長寿社会課 (鳥取市中央包括支援センター)	363

【基本施策を推進する実施計画の事務事業】

No	総合戦略事業	事務事業名	事業の概要 (令和6～7年度)	事業の成果 (令和6年度)	施策への貢献度 (実績)	今後の課題・方向性	部局名	課名	関連事業 (決算事業別 概要ページ)
16	○	地域リハビリテーション活動支援事業費	地域における介護予防の取組を強化するため、通所・訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議等へのリハビリテーション専門職の関与の機会を設ける。	ケアマネジャーや介護サービス提供事業所職員などに対し、担当する高齢者のアセスメント支援などに219件、その他21件、計240件にリハビリテーション職をはじめとする各専門職を派遣。介護事業者やケアマネジャーなどの質の向上に寄与した。	地域の介護サービス事業所職員に対し、リハビリテーション専門職など医療の専門職を派遣し、協働することにより各専門的知見を高齢者支援の現場に適用する機会を設けた。派遣先からは「専門的評価により支援方針が決定できた」「日常生活上の実践的なヒントが得られた」など質的にも概ね良好な評価が得られた。	より多くの事業者が質の高いサービス提供ができるよう、当事業の周知や広報活動を推進していく。	福祉部	長寿社会課 (鳥取市中央包括支援センター)	364